

東京医科歯科大学

【NO23 東京医科歯科大学】

	東京医科歯科大学 保健系分野（歯学）
学部・研究科名	歯学部歯学科（第1年次：53名） 口腔保健学科口腔保健衛生学専攻（第1年次：22名、第3年次：6名） 口腔保健工学専攻（第1年次：10名、第2年次：5名） 医歯学総合研究科（M：110名、D：214名） 難治疾患研究所、生体材料工学研究所
沿革・設置目的	<p>歯学に関する教育・研究を行うことを目的に、我が国唯一の官立歯科医学教育機関として設置された官立東京高等歯科医学学校から官立東京歯科大学専門学校、旧制東京医科歯科大学を経て、昭和26年（1951年）新制東京医科歯科大学歯学部歯学科として設置された。</p> <p>昭和26年（1951年） 新制東京医科歯科大学設置と同時に歯学部歯学科設置                  歯学部附属歯科衛生士学校設置                  歯科材料研究所設置（昭和41年（1966年）に医用器材研究所に改称し、平成11年（1999年）に生体材料工学研究所に改組）</p> <p>昭和27年（1952年） 歯学部附属歯科技工士学校設置</p> <p>昭和30年（1955年） 大学院歯学研究科設置（平成11年（1999年）に医歯学総合研究科に改組）</p> <p>昭和48年（1973年） 難治疾患研究所設置</p> <p>平成16年（2004年） 国立大学法人に移行                  歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻設置</p> <p>平成21年（2009年） 難治疾患研究所が共同利用・共同研究拠点に認定</p> <p>平成23年（2011年） 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻設置</p>
強みや特色などの役割	<p>○ 東京医科歯科大学の理念等に基づき、深い知識と高度な技術、幅広い教養と豊かな感性を備え、使命感を持って全人的な歯科医療を実践できるだけでなく、創造性に富み、国際感覚と国際競争力に優れ、歯科医学及び歯科医療の発展のために指導的役割を果たすことのできる歯科医師・歯科医療技術者・歯学研究者等の養成を積極的に推進する。</p> <p>○ 硬組織ゲノム分野、医歯工連携による歯科材料の開発、パーソナルゲノム医療を始めとする各領域における研究の実績を活かして、先端的で特色ある研究やトランスレーショナルリサーチ、産学連携を推進し、新たな歯科医療技術の開発・実用化や歯科医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。</p>

- 難治性歯科疾患及び全身疾患を有する歯科患者の診療、スポーツ歯科診療、顎口腔成長発育疾患の原因・病態解析による予防医学も含めた臨床へのフィードバック等の取組を通じて、先端的な歯科医療を推進する中核的役割を果たす。
- 技術の進化や高齢化・国際化に対応し、社会福祉や介護予防等を含めた口腔保健教育の推進や、高度かつ特化した歯科技工教育プログラムの開発や普及、在宅診療等における歯科衛生士・歯科技工士の参画モデルの構築等、全国の歯科衛生士・歯科技工士教育を牽引する役割を果たす。
- 国立大学で唯一の医療系総合大学の特色を活かして、医歯学融合教育による全人的歯学教育モデルの構築や世界的視野での歯学教育の標準化、世界トップレベルの大学院教育の展開により、国際競争力のある歯学研究のフロントランナーを育成する。また、日本の歯学教育・研究をASEAN諸国に展開するとともに、全世界にネットワークを拡充し、海外の主要大学及び政府系機関等で指導的活動のできる人材を育成する。